

Bloomin'



2025年11月16日 中京学院大学「満天星花の木祭」in 瑞浪キャンパス



2025年12月18日 「ようこそ学長室へ」取材風景 in 中津川キャンパス

2026
Jan.10
Vol.11

2026年 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。昨年は、皆さんにとってどのような一年だったでしょうか。私たち教学IR室にとっては体制変更もあり、大変慌ただしい一年でした。また、本号でも取り上げておりますが、SXに関する企画など、新たな挑戦にも取り組んだ年でもありました。

教学IR室の業務には、日々のルーティンとして行われるものが多く、その取り組みが固定化しがちな側面もあります。しかし、私たちを取り巻く環境は刻々と変化しており、こうした変化の大きい時代に迅速かつ柔軟に対応できる組織でありたいと強く願っています。

皆様におかれましても多忙な日々が続くことと存じますが、どうぞお体に気を付け、日々の業務に取り組まれますようお願い申し上げます。そして共に、より良い大学づくりを進めてまいりましょう。

教学IR室 室長 **大須賀 元彦**

Pick up! IRレポート

第45回IRレポートで紹介された全学SD研修会（教学IR研修）の内容をご紹介します。今回の研修会では、「Product out から Market in へ」をテーマに、学生の本音に寄り添ったSX（Student eXperience）の向上を目指し、ワークショップ形式の研修を実施しました（8月20日）。事前に行われた経営学部生を対象としたSXワークショップから導かれた「責任ある役割の経験」「実社会との接点」「成功体験の共有」「表現・発信の機会」「対話と内省」という5つの成長因子を起点として、主に職員の皆さんが学生のニーズ分析に取り組みました。

ワークでは、学生の表面的なニーズだけでなく、進学背景や隠れた本音までを丁寧に抽出できた点が大きな成果となりました。例えば、保育科ではAI教育の充実や課外活動を通じた居場所づくり、看護学部では地域医療への参加機会や少人数教育のさらなる充実など、学部の特性を生かした多様なSX向上策が示されました。経営学部の一般生・留学生グループでは国際交流や地域イベントへの参加、スポーツ生グループでは競技と学業の両立支援や責任ある役割経験の機会拡大など、それぞれの学部の特性に応じた具体的な支援の方向性が見えてきました。

また、どの学部においても、学生が「成長実感」や「安心感」、そして信頼できる「伴走者の存在」を強く求めている点が共通して確認されました。こうした声を踏まえ、学生の成長ストーリーを可視化する仕組みの導入や、教職員・OB・地域といったステークホルダーとの「共育」の重要性が改めて示されました。

本研修会にご参加くださいました皆様、そして講師を務めてくださいました経営学部学部長の相場恵先生、当日のワークをサポートくださったRECの皆様にご改めまして心より御礼申し上げます。



学長ワークショップ in 瑞浪



12月22日（月）に「2025年度 第3回 学長ワークショップ」が行われました。看護学部の学生17名を対象として、林勇人学長の「学生が出席したい価値ある授業とは？その創意工夫とは？」という問いかけに熱いグループワークが展開されました。教職員は、総合司会として須栗大先生、進行とファシリテーションを古田雅俊先生が担当され、ほか5名の教職員も参加しました。ワークでは付箋を使いながら「先生とのコミュニケーション」や「双方向の学び」の大切さの意見が出されました。林学長からは「真剣味サイクル」の重要性が説かれ、古田先生からはプロを目指す学生が自らの学びを再考する貴重な相互作用の場にもなったと総括がありました。本学の教育を共に考える、実り豊かな時間となりました。

2025年度 第6回教学IR室 教職員座談会 より



「IR室第45回レポート 全学SD研修会（教学IR研修）実施結果分析報告」（10月15日発行）に関する教職員座談会を行いました。まず座談会メンバーからは、レポートの感想として、以下の意見が出されました。

- ・SX向上には「越境」をキーワードとした他学部・他大学との交流促進が重要である。
- ・学生が自身の経験を言語化し、次の行動につなげられる支援や、PDCAサイクルを継続的に回していく体制づくりが必要である。
- ・施策が良いものであっても実施する教職員の熱意が伴わなければ効果は発揮されないため、一人ひとりが他人事ではなく自分事として取り組む姿勢が重要である。
- ・教員を対象とした同様のSX研修を実施することも有意義である。

加えて、SX委員会に期待することとして、以下の建設的な意見が多く出されて、有意義な座談会となりました。今後、教学IR室では、この座談会の意見を踏まえて学内のSX推進に尽力していきます。

- ・居場所づくりと学生の成長や活躍の可視化を推進し、大学全体にわくわく感が生まれる環境づくりが必要である。
- ・学生が自然と集い、教職員が日常的に声をかけられる環境が重要であり、「もの」と「こと」がうまく連携することが求められる。
- ・学内の掲示物やSNSの内容がOC（関連のコンテンツ）だけではなく、在学生の活躍に関するものも増やしても良いのではないかな。
- ・学生がグループに固まりやすい傾向がみられる。そのため、他の学生と交流する機会を増やすことで、新たな仲間づくりや良い刺激を与え合う関係につながるのではないかな。

2025年度 グッドプラクティス決定

「グッドプラクティス制度（授業改善と教育力向上を目的に）」が本年度から本格的に運用されました。学生からの「授業評価アンケート」、「2025 GP表彰制度インタビューシート」や「授業参観」などをもとに、学部から以下の先生方が本年度のグッドプラクティスに選出されました。おめでとうございます！！

経営学部

李 瑾 先生、熊本 淳 先生

看護学部

岸 央子 先生、吉田 彩 先生

短期大学部 保育科

栗岡 洋美 先生



キラッと☆光る 学生紹介



今回ご紹介する学生は、「高大連携講座 経営学の理論と実践」という中津川地域の学生を対象として、六斎市での販売実習を行い地域活性化を体験的に学ぶ講座のSA (Student Assistant) を担当している松下航さんと佐藤響さんです。

取り組み時に心掛けていることを伺うと、「和やかな空気にできるように心掛けていて、進捗度をそろえることを意識しています(松下)」、「それぞれの生徒さんを見ながら、チームにまんべんなく声をかけるようにしています(佐藤)」とコミュニケーションを大切にしている姿を見ることができました。

また運営の状況を伺うと、「頼られていることがとてもやりがいがあり、試行錯誤しながら形になっていくことが楽しいと感じました(佐藤)」、「学んだことを発揮すること(経営関連の知識)が出来た時に成長感を持ってました。(松下)」と充実感や成長感を持って取り組んでいるようで、頼もしい面を見せてくれています。

メディア掲載の紹介

『教育学術新聞』にて、9月3日付(3面)に「第4回合同IR研修会」の記事が掲載され、さらに10月8日付(4面)には情報交換会での大須賀室長の様子が掲載されました。

詳細は本学ウェブサイトで記事をご覧ください(転載許諾済み)。



教育学術新聞 (2025.9.3)



教育学術新聞 (2025.10.8)



Information

2025.10.4・11.9 保護者懇談会

2025.11.16 満天星花の木祭(どうだんはなのきさい、学園祭)

2025.12.10 教育学術新聞主催オンライン情報交換会(大須賀元彦 教学IR室 室長参加)

2025.12.22 2025年度 第3回 学長ワークショップ

Bloomin'とは?

種を蒔き、芽が出て膨らみ花開くように、教学IR室の様々な発信が本学の発展につながるようお願いをこめてつけました。



教学IR室広報誌について、皆様の意見を参考に、より良いものを目指していきたいと思っております。



編集・発行



中京学院大学

教学IR室 広報誌 Bloomin'

第11号 2026年1月10日発行

〒509-9195 岐阜県中津川市千旦林1-104

TEL : 0573-66-3121

URL : www.chukyogakuin-u.ac.jp

E-mail : ir-room@chukyogakuin-u.ac.jp